

平成 29 年度 第 2 回霧島市母子保健検討委員会 会議趣旨

開催日時	平成 29 年 10 月 23 日（月） 19:30～21:00		
開催場所	国分シビックセンター公民館 3 階 大研修室		
出席委員	碓元委員長、前田委員、宮川委員、山崎委員、新田委員、丸山委員、松元委員 折田委員		
事務局	林健康増進課長、中村健康増進グループ長、吉村健康づくり推進室長、 上小園健康づくりサブリーダー、重留発達支援グループ長、島木すこやか保 健センター副所長、東郷こどもセンター副所長、今井指導主事、渡邊主査、 池田主事、小島主査、		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0 人
<p>議事</p> <p>(1) 健康きりしま 21（第 3 次）母子保健分野 計画素案について</p> <p>(2) その他</p>			
<p>協議結果等の概要 委：委員 事：事務局</p> <p>(1) 健康きりしま 21（第 3 次）母子保健分野 計画素案について</p> <p style="padding-left: 2em;">⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。</p> <p>委：人工死産数に占める 20 歳未満の人工死産割合は、望まない妊娠をした割合もわかるのか。</p> <p>事：妊娠 12 週から 22 週までの妊婦のうち人工的に死産した 20 歳未満の割合が数値として表れている。望まない妊娠だったかは把握できない。</p> <p>委：望まない妊娠をして死産になることもあるのではないかと思う。高校生や中学生で妊娠をしている現状があり、指導をしていく必要があると思う。わかる範囲で現状を教えてください。</p> <p>事：母子健康手帳発行時には一人ずつ面接を行っており、10 代での母子手帳発行の現状としては、妊娠週数が経過してから産婦人科を受診した結果、中絶することができず、一人で悩み、さらに妊娠週数だけが経過し、やっと親に相談し、かなり妊娠週数が経過してから母子健康手帳を発行するケースもある。</p> <p style="padding-left: 2em;">思春期へのアプローチについては、平成 27 年度は要望があった 4 か所の小中学校で、望まない妊娠、命の大切さなどの出前講座をさせていただいた。</p> <p>委：産後うつについて、市ではエジンバラスクリーニング等、客観的な手法で兆候を把握する取り組みを行っているのか。</p> <p>委：産婦人科では出産後、退院して 1 週間健診、2 週間健診時にエジンバラ問診票をとり、その結果フォローが必要な方については行政に連絡するなど連携をとっている。</p> <p>委：宮崎市では出産直後だけでなく、1 歳 6 か月児健診でも実施することで新たに把握できる事例もあるようだが、現状を教えてください。</p> <p>事：市では、新生児訪問等でエジンバラ問診票をとり、フォローをしている。また 2 か月児の頃に「ぴよぴよ教室」を実施し、そこでも参加者にエジンバラ問診票をとり、フォローをしている。今後、母子保健コーディネーターを人員要求していき、産婦人科との連携を強化したり、他機関と連携しながら子育て支援を行っていきたい。</p> <p>委：P26 の現状と課題で、「若年妊婦や高齢妊婦などのハイリスク妊婦が増加し」という</p>			

表現が、唐突にでてきたように感じる。データ等をどこに表記しているのか表現を検討してもよいのではないか。メンタルヘルスの取り組みについては、P25に網羅されるような考え方でよいのか。

事：母子健康手帳交付時に心理的既往歴があるかどうかを必ずアンケートで把握するようにしている。メンタルヘルスの取り組みがわかりにくいとのことで、今後検討させていただきたい。

事：産後うつ対策をもう少し具体化したほうがよいのではないかと意見なのか。

委：全体の流れをみたときに、「妊娠」「出産」「子ども」と分かれていると、妊娠した後の母親のメンタルヘルスが資料として少しわかりにくい。どういう位置づけになるのか。

事：個別目標1で妊娠、出産、そして産後までの支援について記載している。個別目標2では、子育てが始まってからの支援に加え、思春期の問題についても記載している。

委：乳児死亡率の項目はあるが、乳児だけで幼児は入らないのか。

事：霧島市では乳児死亡率が特に高い現状があり、指標にいったところである。

委：浴室での死亡というのは、移動ができる1歳以降の事故が多いはずである。風呂場に関するアンケートをとっているのであれば、幼児期まで入れた死亡率も検討してみはどうか。

事：1歳から4歳までの死亡は、乳児死亡とは別に統計がある。幼児の死亡は評価時には下がっており、乳児死亡については、評価時に数値が国や県よりも高い現状があり、課題と考え、数値目標にあげたところである。

委：個別目標2について、障害児や要保護児童についての取り組みは、「育てにくさを抱える親に寄り添い、必要な支援を行います」の記載に含まれるのか。

事：その通りである。福祉部門で、障害児計画を策定する予定があり、福祉分野で療育も含めた障害児の支援として計画すると聞いている。福祉と連携して取り組んでいく予定である

委：3歳児健診で、「しつけのしすぎがあった」と回答した親については、その後のフォローがあるのか。

事：3歳児健診では、必要に応じて、臨床心理士による個別相談も行っている。健診後にも個別相談ができる相談体制もある。平成28年度から「虐待していると思われる親の割合」として数値を把握することができるようになった。その中でも「感情的な言葉で怒鳴った」という項目が最も高かった。またこの数値は、児の成長とともに高くなっていることから、3歳児健診のこの数値を指標にした。

委：「子どもを虐待していると思われる」数値について、虐待があると思われると、通報するという認識であるが、全て個別に対応しているということになるのか。

事：この表現は、国のすこやか親子21の目標値にもなっている数値であり、実際にこのような表現を国が示していることから市もそのように記載したところである。

委：国はそのような表現をしているとのことだが、霧島市は独自の表現でよいのではないのか。

事：事務局で再度検討させていただきたい。

委：望まない妊娠をしないための教育ということで、平成27年度に小中学校の出前講座として、もっと専門的に指導をしてほしかったが、4校というのは少ないという意見がでた。もっと積極的に実施してほしいと感じている。平成28年度は、実施したのか。

事：平成28年度は1校実施した。平成29年度は、ある中学校から要望があがっている。霧島市は20歳未満の人工死産の割合が高いということ、10代の妊娠の割合が多いと

ということの現状を話しながら、今後の教育について連携していく機会にできればと考えている。

委：市へ依頼したが、日程や内容があわずに断られた学校や、県の助産師会に頼んでいるという学校もある。出前講座の数を増やしていただきたい。

委：教育委員会としては、健康増進課と話し合いをしている。学校のニーズと保健福祉部との考え方に差がある。そのことについては、今後練っていく必要があると考えている。

委：「児童生徒が生命の大切さを知り、自分もまわりの人も大切と考えることができるように関係機関と連携を図ります」とあるが、他県の民生委員から小規模校では、子育て支援の一環で、空き教室で乳幼児と触れ合う機会を作っていること聞いた。命の大切さを知るには、赤ちゃんに触ったり、あやしてみたりすることが貴重な体験になる。関係機関との連携の中に含んでいただきたい。

事：今後、子育て支援も含めて、保育園、幼稚園等との連携を少しずつでも図っていけるように努力したい。

委：喫煙、アルコールに関して関係機関との連携について、どのように考えているのか。学校保健会で話をする機会があればよいと思う。

事：霧島市の小・中学校、高校は、薬物乱用防止教室を100%開催している。学校薬剤師や警察の職員と連携をしている。

委：それはあくまでも対象が児童生徒である。保護者に対しても啓発が必要ではないか。学校保健委員会やPTAなどで保護者に対する啓発も必要なのではないか。

事：学校保健委員会や家庭教育学級等で保護者に対して指導していくことは有効だと思う。今後学校に提案していきたい。

委：喫煙に関して、どのくらい本気で数値を下げようとしているのか心配である。例えば「21時以降の公共の場や飲食店での喫煙を禁ずる」というような条例の制定は考えていないのか。たばこの煙のないお店に登録したら広報誌で取り上げられる回数が増えるなど、何かしらのインセンティブがお店側にあるのか。何らかのインセンティブがないと難しいのではないか。

委：県のホームページにはお店の名前が掲載してある。

事：まずは乳幼児健診時に、保護者に対する機会が多いことから、まずはここから対策を考えていきたい。喫煙、飲酒の取り組みについて再度協議を含めて具体的な対策について考えていきたい。

事：今回700店舗を対象に喫煙に関するアンケートを行い、280店舗から返事を頂いた。アンケート結果をもう一度見直し、タバコのない煙のお店登録の勧めや、ホームページでの紹介を検討している。アンケート結果からステッカーがあったら使いたいところや、自前で作成した店舗もあった。

委：ステッカーはすごく良いと思うので、ぜひ予算をたててほしい。

事：今後検討させていただきたい。

委：酢がめちゃんはどういう位置づけなのか。食育に関係するのか。

事：平成19年度に食育の推進計画（第1次）を立てたが、その時から食育推進のキャラクターとしてPRしている。ぜひ活用してほしい。

委：健康福祉まつりで出てくるのか。

事：必ず出てくる。イベントの時にはぜひ見ていただきたい。

委：食育について、若い世代がいる企業への啓発をしてほしい。

事：企業と一緒に実施するイベントがあるので検討していきたい。

委：子宮頸がんワクチンについて、先日勉強会があったと思うが、どのように考えている

のか。

事：積極的受診勧奨について、県に確認をしたが、県からも個別通知での周知は市町村では適切でないとの回答をもらった。近隣市町村の状況も確認したが、個別通知を行っている自治体はないという現状であった。

委：個別通知ではなくても、学校にパンフレットを配布することはできないのか。ワクチン接種を「する」「しない」は親の自由であるが、周知をする必要はあると思う。

事：事務局で協議させていただきたい。

(4) その他

会議資料

【配布資料】

- 会次第
- 平成 29 年度霧島市母子保健検討委員会委員名簿
- 霧島市健康・生きがいづくり推進における各種委員会の設置に関する要綱
- 健康きりしま 21（第 3 次）素案
- 子育て世代包括支援センターの法定化・全国展開
- 産後ケアチラシ